

# 一般社団法人日本神経精神薬理学会 第84回拡大理事会（2024年度）議事録

日時：2024年5月23日（木）10:00～12:00

場所：東京国際フォーラム G 棟 7 階「G701」および Web 開催（Zoom）

出席者（理事長）：岩田仲生

出席者（理事）：新田淳美、吾郷由希夫、池田和隆、糸川昌成、井上猛、岩本和也、高橋良輔、中込和幸、高橋英彦、成田年、橋本亮太、古屋敷智之、南雅文、渡邊衡一郎

出席者（監事）：曾良一郎

出席者（委員長）：伊賀淳一、北市清幸、服部信孝、宮川剛、森尾保徳

欠席者（理事）：加藤忠史、山田清文

欠席者（監事）：小泉修一

欠席者（委員長）：内田裕之

アンダーライン（オンライン参加）

（敬称略）

上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

前回（第83回）理事会議事録および持回り理事会議決事項の確認がなされた。

## I. 審議事項

### 1. 新入会希望者承認について

北市総務委員長より2024年5月8日～5月17日までの4名の入会申込があったことが報告され、全員が承認された。

### 2. 名誉功労会員推戴について

北市総務委員長より推戴希望者（名誉会員7名、功労会員18名）の提示があり、承認された。

### 3. 統合失調症診療ガイドラインの作成主体及び体制案について

橋本委員長より統合失調症診療ガイドラインの作成主体及び体制案について報告がなされ、承認された。

当該ガイドラインの作成するにあたり、統合失調症診療ガイドライン作成準備ワーキンググループを精神神経学会にて立ち上げ、当学会及び日本臨床精神神経薬理学会に加え、統合失調症学会、日本社会精神医学会、日本精神保健・予防学会、日本精神障害者リハビリテーション学会などが加わり、統合失調症診療ガイドラインの作成主体及び作成体制を決める。

各学会より2-3名のメンバーを代表として選出し、ワーキンググループ内でのディスカッションを行いガイドラインの作成主体及び体制案を作成し、各学会理事会に諮ることとなる。当学会からは竹内 啓善先生、渡邊 衡一郎先生を代表メンバーとして選出された。作成主体及び体制案の決定後はワーキンググループは解散し、作成主体の学会が作成する。

## II. 報告事項

### 1. 各委員会報告

#### a. 執行委員会（岩田委員長）

・2023年9月1日～2024年5月17日までの理事会メール審議について報告がなされた。

#### b. 総務委員会（北市委員長）

・北市委員長より、2023年9月1日～2024年5月17日までの会員動向について以下の通り報告された。

会員数 1,931名（2024年5月17日現在）

名誉会員 35名

功労会員 72名

評議員 307名

一般会員 1,366名

学生会員 140名

法人会員 11 社

※新入会 84 名、退会 25 名

・事務局より、今年度から導入された学会年会費のクレジット決済について報告がなされた。

今年度の年会費支払いにおいて、クレジット決済利用は全体の 62%となっており、多くの会員にご利用いただいている。

クレジット決済導入により 2023 年 9 月時点において全会員への払込取扱票の郵送を控えていたが、今期は 5 月末時点での未納者にもみ払込取扱票を郵送し、会費納入を促す予定である。

- 今年度は全会員への払込取扱票の郵送を控え、メールベースでの納入依頼であった為、また、クレジット決済導入初年度であった為、昨年度の同時期に比べ、納入率は下がっているが、2~3 年の間に納入率の向上をはかるよう会員への周知をし、郵送物送付コストの削減にも繋がるようにしていく。

・北市委員長より、会費未納者への対応について報告がされた。

会費未納者の中には年会前の駆け込み入会者が多い。

定款には、「入会申込書を当該年度の会費を添えて申し込み、理事会の承認を得なければならない。」と記載があるが、現状は理事会の承認後に会費納入依頼をし、会員マイページの利用開始となっている。

- 入会申込者に対し、理事会承認がされた旨の連絡時に、「会費納入後に正式入会を認める」の文言を追記し、正式入会者でないといと年会での発表ができない旨を年会サイトの演題募集要項に明記することで、会費納入しなければ、年会での発表ができない（登録した演題が採択されない）という仕組みを作る。

- 入会申込～正式入会までのフローについて、規則または細則を作成する。

・北市委員長より、学術評議員による推薦人なしの入会申請（総務委員長推薦）への対応について報告がされた。

① 安易に総務委員会推薦を利用しないように HP で呼びかけを行う。

② やむを得ない場合については入会者の卒業大学等を見ながら依頼が可能と思われる評議員の先生方にお声かけをして推薦を依頼することで、総務委員長推薦を可能な限り減らしていく。

#### c. 財務委員会（池田委員長）

・CINP2024 について開催報告がなされた。

（事前参加登録者数：2,400 名、海外からの現地参加申込者数：1,200 名）

・事業計画（案）、予算要望（案）、収支中間決算書について報告がなされた。

#### d. 倫理委員会（加藤委員長）

・報告事項なし

#### e. 編集委員会（宮川委員長）

NPPR について、以下の報告がなされた。

・2023 年 9 月の合同編集委員会での決定に基づき、NPPR の Article Processing Charge が改訂された。

・NPPR の 2023 年のパフォーマンスについて

a) Article Views、投稿数、アクセプトされた論文数ともに順調な伸びを示している。

b) ロイヤリティ収入も順調に伸びている（2022 年度：3,221,029 円→2023 年度 3,938,832 円）。

c) 国際的な多様性について、今後、伸ばしていくことも重要。今回の CINP の海外からの参加者に投稿を呼びかけていただきたい。

d) First decision までの日数にはほぼ変化はない。

e) 査読を引き受ける割合は、若干低下気味。

・NPPR 合同編集委員会（メール審議）にて、以下のことが審議された。

a) NPPR 賞（2023）が選出基準に従って、選出された。

Article Award:28 名、Topic Award:7 名、Review Award:7 名、Reviewer Award:14 名

b) NPPR 賞（2024）の選出基準に従って、選出された。

Article Award:20 名、Topic Award:9 名、Review Award:4 名、Reviewer Award:18 名

・以下の NPPR セミナーを実施。

(ア) CINP/JSNP/JSCNP/NPPR/JPS 合同シンポジウム (於 日本薬理学会年会)

2023 年 12 月 15 日 (金) 10:50 - 12:20

「うつ病研究最前線 ～モデルマウス、マーカー、診断、治療～」

オーガナイザー : 池田 和隆 (東京都医学総合研究所)、宮川 (藤田医科大学)

コメンテーター : 東田 千尋 (富山大学)

講演者 : 新田 淳美 (富山大学)、毛利 彰宏 (藤田医科大学)、櫻井 準 (杏林大学)、  
Si Tianmei (北京大学)

(イ) "Excitatory / Inhibitory balance in neuropsychiatric disorder" (JSNP/JSCNP 2024)

Date / Time : Sunday, May 26, 2024/ 14:45-16:15(JST)

Speakers: Kim Do (Lausanne University), Anthony Grace (University of Pittsburgh) ,  
Tsuyoshi Miyakawa (Fujita Health University)

(ウ) Anthony Grace (University of Pittsburgh) "Adolescent Stress as a Risk Factor for  
Schizophrenia" (於 富山大学)

2024 年 5 月 28 日 (火) 17:00 - 18:00

f. 国際学術委員会 (新田委員長)

・54 回年会開催について開催報告がなされた。

・JSNP2024 国際学術委員会特別企画について、下記開催内容の報告がなされた。

5 月 24 日 13 : 30-14 : 30 第 12 会場

丹羽美苗 (Department of Psychiatry and Behavioral Neurobiology, University of Alabama at Birmingham  
Heersink School of Medicine)

ストレスと脳と行動の関係に迫る : 米国で挑戦する女性 PI の航海

・TSBPN-JSNP academic exchange award について、下記、受賞者選考および受賞講演について報告がなされた。

- TSBPN-JSNP academic exchange award 受賞者 (日本人) 選考は

5 月 26 日 12 : 05-13 : 00 G401 国際学術委員会にて決定される。

今年度は基礎から 1 名、臨床から 2 名の応募があった。

- 第 54 回日本神経精神薬理学会年会にて TSBPN から選出された 2 名に若手研究者からの受賞講演を実施する。TSBPN-  
JSNP academic exchange award2024・第 34 回日本臨床精神神経薬理学会

2024 年 5 月 26 日 14 : 20-15 : 40 第 17 会場 (G510)

座長 笠井慎也委員

Mu-Hong Chen1 (Taipei Veterans General Hospital)

Role of klotho on antidepressant and antisuicidal effects of lowdose ketamine infusion among patients  
with treatment-resistant depression and suicidal ideation

Shyh-Yuh Wei (National Cheng Kung University Hospital)

Associations of leptin and corticostriatal connectivity in bipolar disorder

・AsCNP 関連について、ACNP (アメリカ神経精神薬理学会) 参加・発表への派遣推薦枠 (現地参加 : 6 枠、オンライン参加 :  
10 枠) について、募集中 (6 月 10 日締切) である旨、報告がなされた。

- 63rd Annual Meeting of American College of Neuropsychopharmacology: December 8-11,2024

・今後の国際学会の予定について、下記のとおり報告がなされた。

- AsCNP2025・CINP2025 合同大会 Melbourne, Australia: June 15-18, 2025

- CINP2026 Glasgow, Scotland: June 26-29, 2026

g. 広報委員会 (古屋敷委員長)

・HP の更新やメール配信 (2023 年 9 月 1 日～2024 年 5 月 17 日 : 25 通) を行った。

h. 企画・研究・将来構想委員会（高橋英彦委員長、成田委員長）

・成田委員長より、昨年度オンラインにて開催された先端研究推進基盤講演会について開催報告がなされた。

#### 第2回先端研究推進基盤講演会

開催日時：2023年12月26日17時-18時

主催：日本神経精神薬理学会 企画委員会

形式：オンライン（Zoom）

使用言語：日本語

対象：日本神経精神薬理学会会員

参加費：無料（事前登録制）

講演内容：「神経精神疾患病態解明のためのバイオインフォマティクスの応用」

第一部 17:00-17:30

「神経精神疾患研究分野における生成 AI の活用 ～論文執筆から投稿まで～

/Utilizing Generative AI in Neuropsychiatric Research: From Writing to Submitting Papers」

吉田和生先生（慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 教育研修部 部門長）

第二部 17:30-18:00

「心の揺れ・葛藤のデータ駆動的解読 + α」

本田直樹先生（広島大学 大学院統合生命科学研究科 教授）

参加者：60名

#### 第3回先端研究推進基盤講演会

開催日時：2024年3月26日17時-18時

主催：日本神経精神薬理学会 企画・研究・将来構想委員会

形式：オンライン（Zoom）

使用言語：日本語

対象：日本神経精神薬理学会会員

参加費：無料（事前登録制）

講演内容：ビッグデータを活用した神経精神疾患病態解明へのアプローチ

第一部 17:00-17:30

「さまざまな種類のメタ解析の結果からうつ病治療を考える」

田近亜蘭先生（京都大学大学院医学研究科 健康増進・行動学分野 准教授）

第二部 17:30-18:00

「ゲノムワイド関連解析とポリジェニックモデル」

清水 厚志先生（岩手医科大学 医歯薬総合研究所 生体情報解析部門 部門長 教授）

参加者：91名

・2023年度の日本神経精神薬理学会年会において、企画委員会 WG 選出のシンポジウム講演、特別講演などを録画しており、会員への情報提供として、会員限定の動画配信を行っている。HP 上で、会員ログインの後、会員専用ページにアクセスすると“年会講演動画”を視聴することが可能である（視聴期間：2年間、視聴料：無料）

・2024年度の日本神経精神薬理学会年会において、

(1)同時期に東京で開催される日本緩和医療薬学会との共催シンポジウムの企画を支援する。

(2) JSNP 特別企画、日本緩和医療薬学会とのジョイントシンポジウムなど録画し、配信する予定となっている。こうした配信予定の講演などは事前に参加者にお知らせする予定である。

このような会員への年会講演のオンライン配信や先端研究推進基盤講演会については、学会企画として今後も継続することを予定している。

年会講演のオンライン配信については、発表スライド+録音された音声を配信するかたちを取れば、コストはあまりかからない。年会会期中に受講した講演と同日時のプログラムを視聴できるという点でも有意義である。

参加者への事前アナウンスおよび、視聴料（年会参加費を支払った方へは無料配信にする、or 学会員へは無料配信とする、等）については学会事務局および年会事務局と連携し、協議をしていく。

#### i. 学術賞選考委員会（糸川委員長）

・第 13 回学術奨励賞が選考され、以下の 2 名の先生が受賞され、第 5 4 回大会で受賞講演の予定。

基礎系：出山 諭司 先生（金沢大学医薬保健研究域薬学系薬理学研究室）

臨床系：塩飽 裕紀 先生（東京医科歯科大学精神行動医科学分野）

・JSNP Excellent Presentation Award for CINP2024 応募状況について報告がなされた。

・24 名（基礎系：18 名、臨床系：6 名）の応募があり、以下スケジュールで審査が行われ、受賞者 21 名（基礎系：15 名、臨床系：6 名）が決定した。鍋島賞は最高得点の浅岡 希美先生に決定した。

①応募者：ポスター提出（締切：4/30）→事務局にて取りまとめ

②委員：採点(5/8～17) →事務局にて取りまとめ

③委員および理事長：結果報告（5/21）

授賞式は 5/26(日)の Farewell Party 内にて執り行われる。

#### j. トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会（森尾委員長）

・評価バリエーション軽減検討について、評価者が患者と対面の上、Montgomery Åsberg Depression Rating Scale (MADRS) を評価した結果と、遠隔地から情報通信機器を介して評価した結果との間で高い一致度が得られた横断的研究に続いて、縦断的研究の必要性について脳科連の Decentralized Clinical Trials (DCT)タスクフォースと共同し、NCNP と PMDA との連携活動を活用し再確認しようとしている。

・精神・神経データシェアリング推進組合設立準備委員会について、委員会が主体となって治験や臨床研究の Individual Participant Data を受け入れようと研究計画を作成し、NCNP の倫理委員会に審査を依頼したところ、承認が得られず、中込先生が主催されている精神疾患レジストリ（マイレジストリ）をデータシェアリングのプラットフォームとして活用することとした。今後は、データシェアリングを実現するような研究を支援する活動を行う予定である。

・製薬会社からのコンサルテーション依頼はなかった。各先生方に企業などから相談があった場合であり、かつ他の先生の意見も聴いてみたいという場合などに、本フレームの活用をご提案いただきたい。

#### k. 薬事委員会（渡邊委員長）

・2023 年 9 月 1 日～2024 年 5 月 17 日の間に申請された各ガイドライン転載許諾（6 件）について報告がなされた。

・ソメリン細粒 1%、錠 5 mg、錠 10 mg の販売終了および代替品について了承した旨、報告がなされた。

・炭酸リチウム安定供給に関する要望書を理事長名で厚労省へ提出した結果、薬価が上がり、供給が維持された。

#### l. COI 委員会（岩本委員長）

・COI 自己申告書について、該当の役員全員より提出されたことが報告された。

#### m. EGUIDE 委員会（橋本委員長）

・2023 年度講習では、対面とオンラインにて統合失調症のガイドラインとうつ病のガイドラインの講習をそれぞれ 12 回行い、延べ 551 名が参加した。そのうち、普及のみのための講習（研究参加なし）については、オンラインで 2 回ずつ行った。

2024 年度講習では、統合失調症のガイドラインとうつ病のガイドラインの講習をそれぞれ 12 回行い、延べ 500 名程度が参加する予定である。そのうち、普及のみのための講習（研究参加なし）については、オンラインで 2 回ずつ行う予定である。

・各学会でガイドラインの普及に関するシンポジウムやワークショップを企画して実施する予定である。

#### n. 診療ガイドライン委員会（橋本委員長）

ア. 統合失調症診療ガイドライン委員会（橋本委員長）・・・審議事項にて報告済み

イ. 不安症・強迫症診療ガイドラインタスクフォース（井上委員長）・・・報告事項なし

ウ. 遅発性ジスキネジア診療ガイドラインタスクフォース（曾良委員長）

・曾良委員長より、タスクフォース活動報告がなされた。

2023年9月の第53回日本神経精神薬理学会年会ではタスクフォース委員会を対面にて開催した。

両診療科から構成されたタスクフォース委員が作成した初稿を検討し、重複箇所等について整理すると共に編集作業を行っている。

2024年5月の第54回日本神経精神薬理学会年会(CINP/JSNP/JSCNP2024 合同大会)では JSNP/JSCNP 企画シンポジウム「遅発性ジスキネジアに関する診療ガイドライン作成」において執筆を分担しているタスクフォース委員から発表予定である。

o. 専門医制度委員会（伊賀委員長）

・第10回臨床精神薬理教育 Web セミナー「クロザピンの臨床精神薬理学 Up to Date」を下記のとおり開催することが報告された。

日 時：2024年10月20日(日) 9:00～12:00

開催方法：Web 開催

参加費：3,000 円【締切日 10月11日】

p. Nomenclature Working Group（内田委員長）

・内田委員長欠席の為、代理で岩田理事長より、2023年10月7日にスペイン・バルセロナにて、および2024年3月25日オンライン形式にて開催された Neuroscience-based Nomenclature (NbN) タスクフォース会議について報告がなされた。今後、これまでの成果を日本国内・アジア諸国に還元する方法につき検討している。

q. 会員交流促進タスクフォース（宮川委員長）

・会員交流促進タスクフォース活動報告として、NPPR セミナー後の懇親会開催、セミナー演者のアテンド、SNS の発信（X や会員宛でのメール配信での NPPR 論文紹介）等の報告がなされた。SNS での宣伝はそのままオルトメトリック値に反映され、オルトメトリック値が高い論文は、被引用数が多くなる傾向にある為、自身の論文の SNS での紹介を積極的に行っていただきたい。

r. 臨床神経薬理研究基盤構築タスクフォース（服部委員長）

・神経内科の当学会への参加を促進することを目的に、52 回年会時よりシンポジウムを開催している。54 回年会においてもシンポジウム、ランチの開催がされることが報告された。

今後の活動として、非運動症状（特にうつ）が神経質性疾患の最初の症状であることを浸透させるべく、今秋を目途に共同研究プロジェクトを提案する予定である。

## 2. 年会報告

a. 第54回年会について、新田年会長より下記のとおり報告がなされた。

会期：2024年5月24日（金）～26日（日） ※CINP2024 は、23日午後より。

場所：東京国際フォーラム

テーマ：ウェルビーイングを目指した神経精神薬理学-関わる全ての人々がこころを合わせる時-

開催形式：日本臨床精神神経薬理学会（渡邊衡一郎 年会長）と合同、

CINP（池田和隆 年会長）と同時開催。

言語：日本語

収支：3 学会合同

国内合同大会

先達に聴く 3

特別講演 2

教育講演 9

JSNP 奨励賞受賞講演 シンポジウム 20（和漢薬・漢方薬関連 2、神経内科関連 2）

NPPR セミナー

73 ポスター

## JSNP 特別企画

橋本 亮太(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部)

精神疾患の世界を変える～野望を持って理想を目指せ！

古屋敷 智之 (神戸大学大学院医学研究科薬理学分野)

神経精神薬理学における基礎研究の現在と未来

JSNP 国際学術委員会特別企画

5月24日 13:30-14:30 第12会場

丹羽美苗 (Department of Psychiatry and Behavioral Neurobiology, University of Alabama at Birmingham Heersink School of Medicine)

ストレスと脳と行動の関係に迫る：米国で挑戦する女性 PI の航海

また、CNP 渡邊 年会長、CINP 池田 年会長からもそれぞれ合同年会としての報告がなされた。

### b. 第55回年会について、橋本年会長より下記のとおり報告がなされた。

会期：2025年11月13日(木)～11月15日(土)

場所：国立京都国際会館

テーマ：精神疾患の世界を変える～野望を持って理想を目指せ！

開催形式：日本生物学的精神医学会(中尾智博 年会長)

日本臨床精神神経薬理学会(尾関裕二 年会長)と合同年会

### c. 第56回年会(古屋敷年会長)

会期：2026年10月30日(金)～11月1日(日)

場所：ライトキューブ宇都宮

開催形式：日本生物学的精神医学会(三島和夫 年会長)

日本臨床精神神経薬理学会(古郡規雄 年会長)

日本精神薬学会(黒沢雅広 年会長)と合同年会

## Ⅲ. その他

### 1. 日本学術会議、日本脳科学関連学会連合について(高橋良輔理事)

日本学術会議の活動状況が報告された。

脳とこころ分科会は活動継続される。

国とは別の法人格を有する組織になることが望ましいとされたことを踏まえ、見解が示された。

日本の研究力低下についてディスカッションされた。

日本脳科学関連学会連合の活動状況が報告された。

脳神経科学統合プログラムがAMEDではじまり、97課題が選ばれた。

科研費の増額要望について、会員学会である日本生物学的精神医学会より、研究費増額に反対する研究者はいないと思われ、一般の方からの支援が重要であり、一般市民の方の署名を集めることが必要ではないかとの意見があった。脳科連として賛同することが承認されたが、上記意見も伝えることとなった。

### 2. 日本薬系学会連合について(南雅文理事)

日本薬系学会連合の活動状況が報告された。

5/11(土)第1回フォーラム、今年中に第2回フォーラムが開催された。

次期理事会にて審議をいただきたい。

### 3. 今後の予定

今後の理事会、評議員会、社員総会について、下記のとおり開催される予定である。

【旧理事会】

開催日時:11 月 10 日 (日) 午前 (開催方法:オンライン)

【新理事会】

開催日時:11 月 10 日 (日) 以降

【評議員会・社員総会】

開催日時:11 月 10 日 (日) 午後 (開催方法:オンライン)

以上